

## 県内における産業廃棄物の排出状況等について

平成 26 年 11 月 18 日  
産 業 廃 棄 物 課

## 1 産業廃棄物排出量の状況

平成 18 年度以降、産業廃棄物の県内排出量は、表 1 及び図 1 のとおりである。

表 1 県内排出量

(単位: 万t)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
排 出 量	863.2	846.9	834.4	821.8	799.4	745.4	805.2
平成18年度比	100%	98% (△ 2%)	97% (△ 3%)	95% (△ 5%)	93% (△ 7%)	86% (△ 14%)	93% (△ 7%)

(単位: 万t)

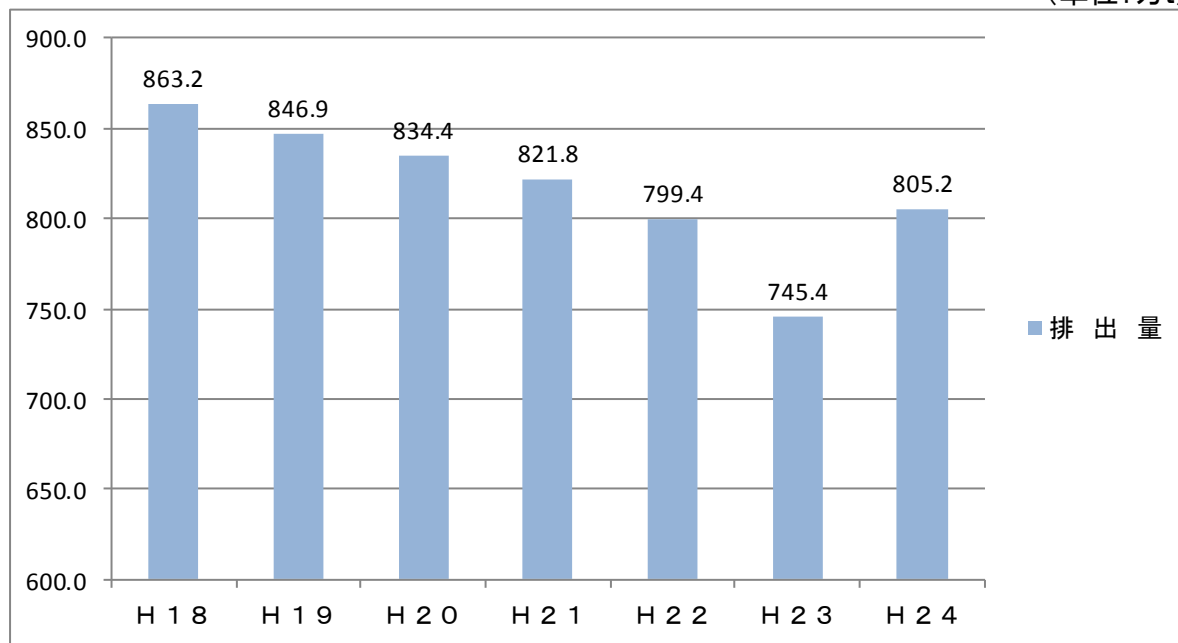


図 1 県内排出量

産業廃棄物の排出量は、税を導入した平成 18 年度以降減少が続いた。

平成 23 年度は東日本大震災により産業活動が停止した影響などにより排出量が大きく減少となったが、平成 24 年度は産業活動の再開及び災害復旧・復興工事などにより排出量が増加し、平成 22 年度と同程度となった。

平成18年度以降における産業廃棄物の種類別、業種別の排出量は、図2、3のとおりである。

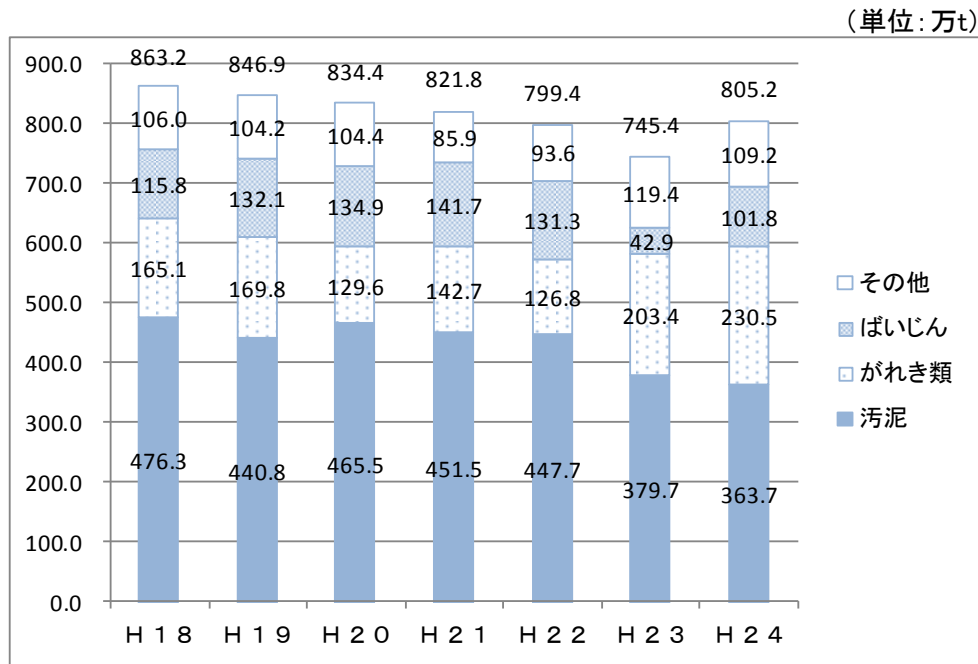


図2 種類別排出量

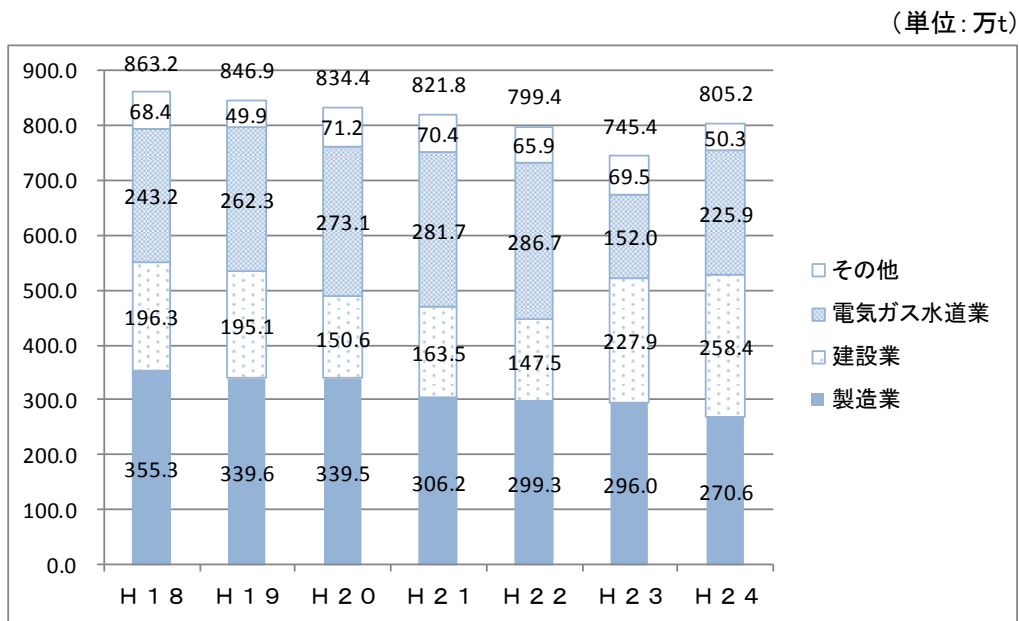


図3 業種別排出量

種類別に見ると、直近の平成24年度は、「汚泥」が最も多く、次いで「がれき類」、「ばいじん」となっている。平成18年度以降は「汚泥」が減少傾向、震災以降の平成23年度から「がれき類」が増加傾向にある。

業種別に見ると、直近の平成24年度は、「製造業」が最も多く、次いで「建設業」、「電気・ガス・水道業」となっている。平成18年度以降は「製造業」が減少傾向、震災以降の平成23年度から「建設業」が「電気・ガス・水道業」を上回った。

## 2 産業廃棄物の最終処分量の状況

平成18年度以降、県内で発生した産業廃棄物最終処分量は、表2のとおりである。

なお、この最終処分量には県外で最終処分された量（表4の数値）が含まれており、県外から搬入され最終処分された量（表3の数値）は含まれていない。

表2 県内発生 of 産業廃棄物の最終処分量

(単位: 万t)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
最終処分量 (最終処分率)	61.3 (7%)	69.6 (8%)	80.0 (10%)	71.8 (9%)	72.6 (9%)	52.3 (7%)	96.2 (12%)
平成18年度比	100%	114% (14%)	131% (31%)	117% (17%)	118% (18%)	85% (△ 15%)	157% (57%)

最終処分率=(最終処分量/産業廃棄物の県内排出量)×100

県内の最終処分場には県外からも搬入され最終処分されているが、その量は表3のとおりである。

表3 県内の最終処分場に県外から搬入された量

(単位: 万t)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
県外からの搬入量	15.5	18.3	18.0	15.5	18.5	18.6	23.5

県内で発生した産業廃棄物は県外でも最終処分されているが、その量は表4のとおりである。

表4 県外の最終処分場への搬出量

(単位: 万t)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
県外への搬出量	1.3	1.2	1.7	2.6	1.7	3.2	4.8

県内の最終処分場に搬入され最終処分されている量（埋立量）は表5のとおりである（表2～4の数値から積算したもの）。

表5 県内の最終処分場における埋立量

(単位: 万t)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
埋立量	75.5	86.7	96.3	84.7	89.4	67.7	114.9
平成18年度比	100%	115% (15%)	128% (28%)	112% (12%)	118% (18%)	90% (△ 10%)	152% (52%)

埋立量=最終処分量+県外からの搬入量-県外への搬出量

平成18年度以降における県内で発生した産業廃棄物の最終処分量と県内の最終処分場における埋立量の推移は、図4のとおりである。

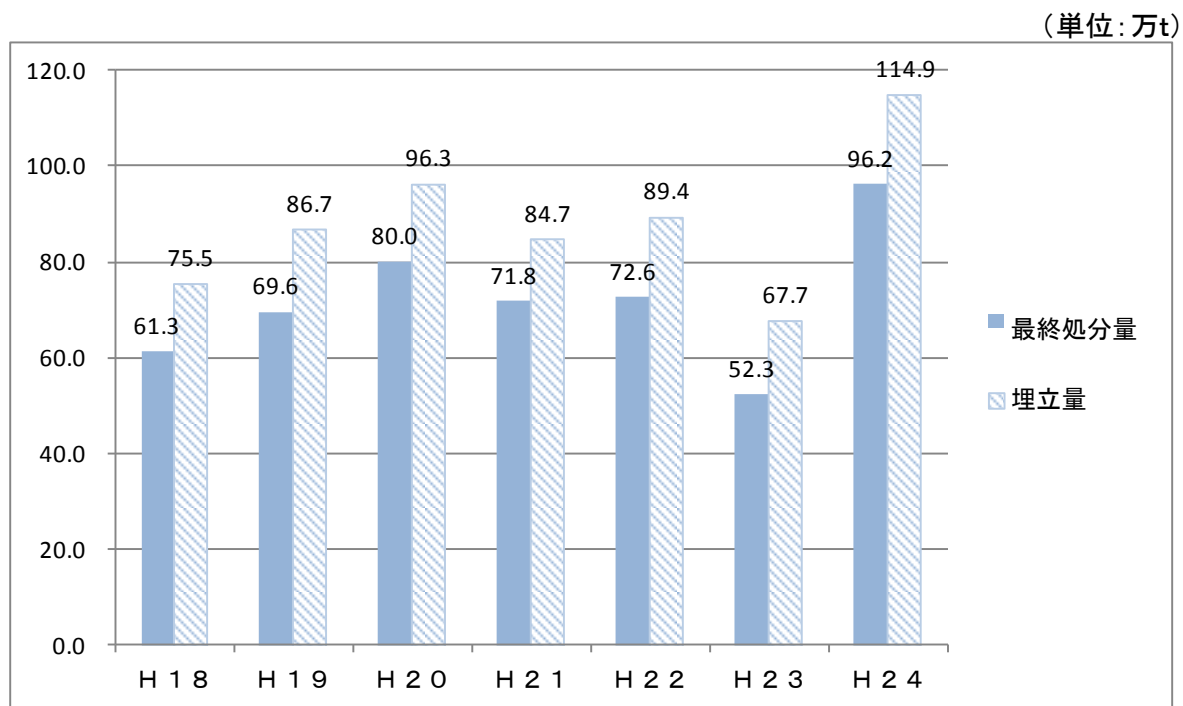


図4 県内産業廃棄物の最終処分量と県内最終処分場における埋立量

県内産業廃棄物の最終処分量及び埋立量は、税を導入した平成18年度以降、増加傾向が続き、平成20年度を境に減少傾向に転じている。

平成23年度は東日本大震災により産業活動が停止した影響などにより減少となったが、平成24年度は産業活動の再開及び災害復旧・復興工事などにより増加した。

平成18年度以降における県内で排出された産業廃棄物の種類別、業種別の最終処分量は、図5、6のとおりである。

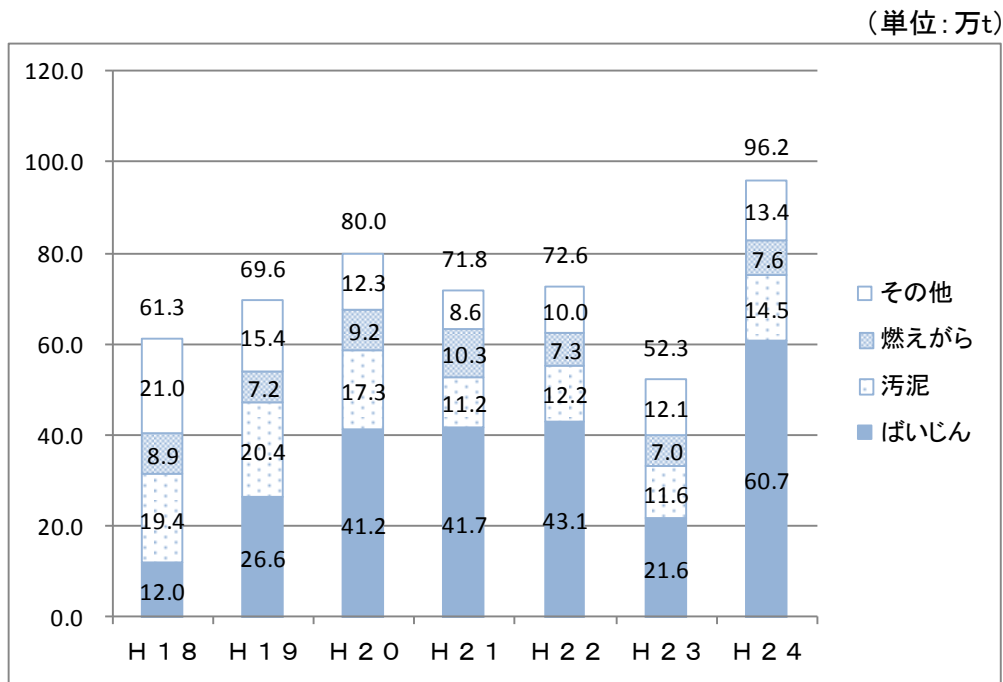


図5 種類別最終処分量（県内産業廃棄物）

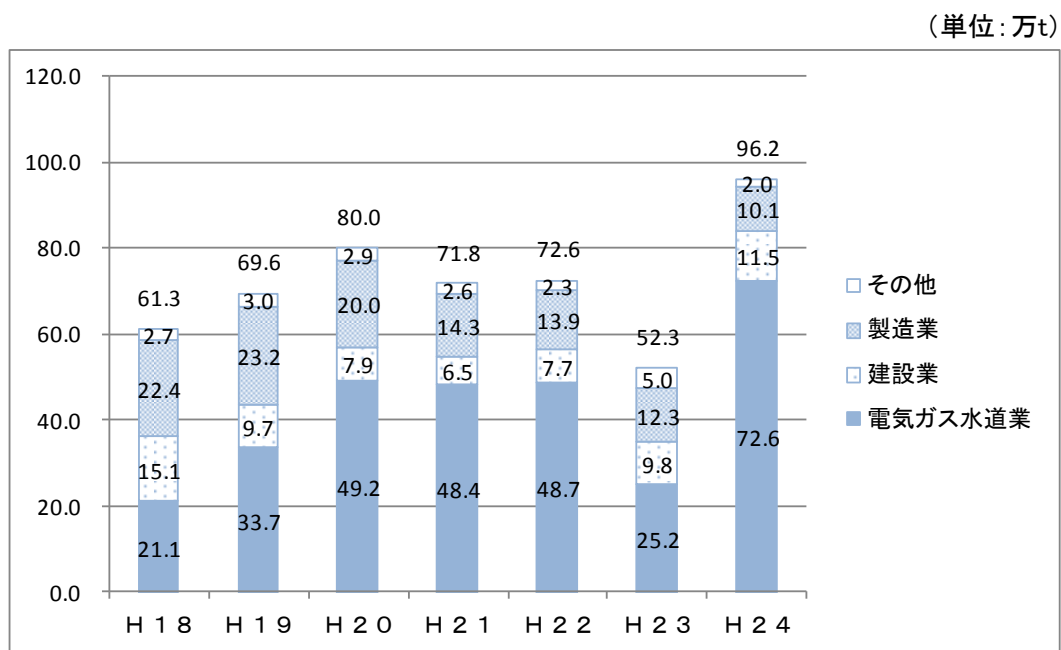


図6 業種別最終処分量（県内産業廃棄物）

種類別に見ると、平成18年度以降は「ばいじん」が増加傾向にあり、最終処分量全体の中でも「ばいじん」の占める割合が高い。

業種別に見ると、平成18年度以降は「製造業」が減少傾向となっている。最終処分量全体の中では「電気・ガス・水道業」の占める割合が高い。